



あきたの中高生が海洋ごみ問題を解決に導く！

秋田県の海岸263 kmには対岸の大陸（海外）と本州日本海南部から対馬海流に流された海洋ごみが漂着する。また、内陸から発生するごみは県内3大河川を伝って流れ込む陸由来のごみが多い傾向にある。海岸に漂着した海洋ごみの清掃はもちろんのこと、陸由来の街から発生するごみを削減する取り組みが必要とされる。県民一人ひとりが海洋ごみ問題に関心をもってもらい、「ごみを出さない」「ごみを捨てない」「ごみを拾う」習慣化を図るため、県内の中高生と連携を行い海洋ごみ問題についての学び、行動を実施しその発信を行った。

2024年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI事業など

海洋ごみ問題を学ぶ 特別授業



- 概要** 県立大の先生を各学校に招き「海洋ごみ問題を学ぶ特別授業」を県内15校実施し生徒に海洋ごみの基礎知識を学んでもらう。
- 目的** 陸由来のごみが多い事を認識してもらい、中高生の海洋ごみ問題に関する意識を高め学ぶ機会をつくる。

アピールポイント おもいでごみ拾いと並行して行う事で運動性を持って実施できる

効果 指標とした数字：
参加校数15校
見られた成果：
13校参加※年度内に15校予定

おもいでごみ拾い



- 概要** 中高生に学校周辺や通学路、海岸などのごみ拾いを行ってもらい。活動の様子を撮影しサイトにアップして学校生活の思い出にする。
- 目的** 自分たちの住む街から「ごみを出さない」「ごみを捨てない」「ごみを拾う」習慣をつけてもらう。

アピールポイント 内陸部の中学校高校の実施率を高め海洋ごみ問題を意識づける。

効果 指標とした数字：
参加校数70校、参加人数10,000人
見られた成果：
75校、10,280人参加

CFBコラボ商品の開発



- 概要** 角館中学校では「脱プラスチック米」稲作、矢島高校では海で拾ったプラスチックごみを利用したアートに取り組み啓発を行う。
- 目的** 県内陸部の学校と連携し学校周辺の住民に海洋ごみ問題の周知啓発を行う。

アピールポイント 中高生が行う事で地域住民に関心を持ってもらい海洋ごみに関しての関心度が高まる。

効果 指標とした数字：
参加校数2校、参加人数100人
見られた成果：
2校参加、参加人数103人
商品開発1つ、アート作品1展

秋田竿燈まつりで 周知啓発



- 概要** 海洋ごみ問題を学んだ中高生が考える絵やロゴを竿燈祭りの提灯とうちわに描き周知啓発を行う。祭り前後には会場周辺のごみ拾いも行う。

目的 中高生が海洋ごみ問題を学ぶだけでなく自分の考えを絵で表現する事で観覧客への関心度を高める。

アピールポイント 秋田県内最大で約120万人が来場するお祭りで提灯やうちわを見てもらい多くの来場客に海洋ごみ問題を周知啓発できる。

効果 指標とした数字：
中学生参加人数100人
見られた成果：
集まった絵やロゴ56作品

海ごみゼロウィーク（清掃活動）



清掃活動参加人数 24,155人 **箇所数** 95箇所

アピールポイント 県内の中学校高校の参加校数が増えてきている。参加自治体も年々増えてきていて海プロの活動が浸透している。

メディア露出



メディア露出本数 18本

アピールポイント 自社でのCFB動画10本CM3本を始め秋田魁新聞では4本、五城目高校がある地方新聞の湖畔時報社で活動の取り上げが初めてあった。

2024年度の課題とこれからの展望

これまでの中高生連携で中高生には海洋ごみ問題が浸透しつつある。1校1校参加のご案内をしていく地道な活動が実りつつあるのでこの活動は引き続き実施しなければいけない。今年度は内陸部の学校での実施も強化し理解を深めてきたがまだ認識不足な学校も多数あるので粘り強く活動を続けていく。この活動を大きく広げていくために県内最大のお祭り「秋田竿燈まつり」とのコラボで県民や来場客に周知していく。来期は3Dプリンタコンテストを実施し「未来」に向けた活動にも取り組んでいきたい。